

私立大学は250校消滅するのか？

日 時：2026年7月17日（月）13：30～16：30
会 場：オンライン開催
主 催：日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所

財務省の財政審は、人口減少期の社会においては大学規模の適正化が必要であり、私立大学は2040年までに約250校を縮減すべきという案を公表し、定員割れや低レベルの補修授業を行う大学を批判した。国費の私学への投入を理由として私立大学の整理が俎上に上がっている。

一方、中教審の「知の総和」答申においては、学生数の急減に備えて、高等教育の規模の適正化への再編・統合、縮小、撤退の課題が提起された。地方大学の存続の必要性も指摘されている。

人材育成と社会の知的基盤を支えてきた私立大学の役割を評価し、将来的な縮小の方向を真剣に追求することは重要である。しかし、規模の縮小と学校数の削減とは異なる。「私立大学の数が多いので250校を削減」とは強引であり周到な教育政策ではない。実在する私立大学を国が削減することは容易ではなく、削減方法や結果の検証も必要となる。

については、私立大学の縮小や整理をテーマに、高等教育研究の専門家を招いて、高等教育政策と私立大学の方向性について協議したい。

講演1. 「18歳人口の減少と大学の「近」未来を考える-基準・視点・理念-」（13:30～14:00）

講師：島 一則 氏（本研究所研究員/東北大学大学院教育学研究科・教育学部 教授）

概要：18歳人口の減少は大学にとって確定した近未来である。重要なのは、その変化に「今」どう対応するかである。その判断は効率・平等という「基準」、納税者・大学・学生という「視点」、大学観という「理念」によって異なる。本報告では地方複数県を比較し、教育機会供給機能と人材養成機能から人口減少期の大学と政策の課題を考察する。

講演2. 「日本の岐路と大学の未来」（14:00～14:30）

講師：合田 隆史 氏（本研究所 客員研究員/（一社）文教夢倶楽部 代表理事/尚絅学院大学 名誉教授）

概要：日本全体が持続的発展か衰退かの岐路に立つ中で、大学政策においても、目指すべき未来と現実的な予測、期待と不安が錯綜しているように見える。目指すべき未来からバックキャストして求められる大学の在りようと、これを実現するために何が必要かについて、一つの考え方を提示してみたい。

講演3. 「ユニバーサル・アクセス時代の高等教育システムを考えるために」（14:30～15:00）

講師：濱中 義隆 氏（国立教育政策研究所 高等教育研究部長）

概要：大学教育の適正な「規模」をどのように考えるか。進学需要を支える家計の教育アスピレーションや費用負担の実態（プッシュ要因）、他方で今日の社会において大学卒業者に期待される役割（プル要因）等を踏まえつつ、ユニバーサル・アクセス時代の高等教育像について論点整理を行う。

休 憩 （15:00～15:10）

パネルディスカッション（15:10～16:30）

パネリスト：安井 順一郎 氏（文部科学省高等教育局 高等教育企画課 課長）

濱中 義隆 氏（国立教育政策研究所 高等教育研究部長）

合田 隆史 氏（本研究所 客員研究員/（一社）文教夢倶楽部 代表理事/尚絅学院大学 名誉教授）

島 一則 氏（本研究所研究員/東北大学大学院教育学研究科・教育学部 教授）

司会：西井 泰彦（本研究所 主幹）

お申込み

日本私立大学協会webサイト（<https://www.shidaikyo.or.jp/>）“トピックス”の公開研究会の開催案内から「申込フォーム」に記入の上、2026年7月13日（月）までにお申し込みください。終了後に期間限定で行う録画配信をご希望の方もお申込みください。

○参加料は無料です。

○お申し込み時に登録されたメールアドレスに、申し込み完了の自動返信メールが送信されます。15分経過してもメールが届かない場合には、お手数ですが研究所までご連絡ください。

○本公開研究会は、web開催です。視聴用のURLと配布資料は、お申し込みいただいたメールアドレスに、**開催日前日迄**にご案内いたします。

○ご登録いただいた情報は、本研究所の事業運営に必要な範囲に限り利用いたします。

○講演内容等は変更になることがございます。

○録画・録音・撮影は、禁止とさせていただきます。

【問合せ先】日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所 担当：坂下 景子、三井 涉

TEL：03-5211-5090 / MAIL：info@riihe.jp